

## 連載



2025年の株式市場を見ると、年初に見られた多くの予想に反して欧州株の堅調さが目立っています。昨年11月のトランプ氏の米大統領の選出以降、米国株が他の国々をアウトパフォームするという投資家の予想は当初的中していましたが、25年に入ってその動きは逆転しています。こうした背景もあり、日本の投資信託市場においても、欧州株ファンドの資金フローに変化の兆しがみられています。

グローバル株式ファンドにおいて、米国とともに資産配分を中心となっている欧州株ですが、地域に特化した欧州株ファンドで見ると残高は大きくありません。図表1で過去5年ほどの欧州株ファンドの残高推移を見ると、2,000億円前後での推移となってきましたが、足元で急増しており、直近の5月末時点で2,770億円となっています。また、これまで単一国・地域に特化した株式ファンドの資金動向を見ると、米国株、インド株に人気が集まる状況でしたが、パフォーマンスの変化とともに物色される対象は徐々に広がっており、5月の欧州株ファンドへの資金流入は一気に200億円を上回る水準まで急拡大しています。

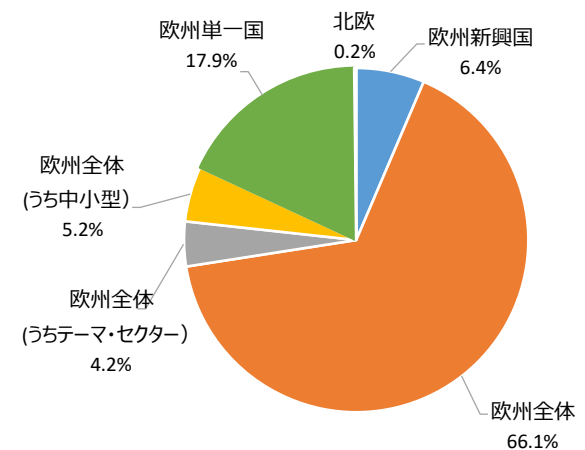
ちなみに、5月末時点の残高2,770億円のうち、およそ4分の3にあたる2,090億円は欧州全体に幅広く投資するファンドで、次いで約500億円がドイツ株など単一国に投資するタイプのファンドとなっています(図表2参照)。さらに細かく見ると、欧州全体に投資するファンドのうち、テーマ型やセクターを絞ったものが120億円、欧州の中小型に絞ったものが140億円の残高となっています。

また、図表1で資金流入額が月間50億円を超えた時期を見

ると、21年6月からの資金流入は、欧州のブランド品などにフォーカスしたテーマ型ファンドに資金流入が見られました。また、24年2月は新規設定された欧州の高配当株にフォーカスしたファンド、今年3月はドイツのDAX指数に連動するインデックスファンド、そして今年4月には新規設定された割安成長株の戦略に高水準の資金流入が見られており、5月もその資金流入が加速しています。先に指摘したように、グローバル株式ファンドなどを通じて欧州株式への投資自体は広がっているのに、地域に特化した欧州株式ファンドに投資する場合、欧州全体を投資対象としつつも何らかの特色のある欧州株式ファンドが好まれる傾向があると言えます。

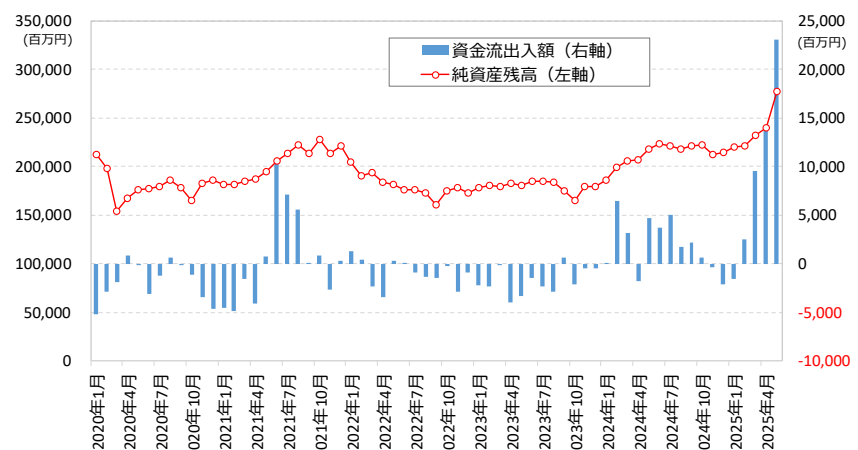
(執筆：BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介)

図表2 追加型・欧州株ファンドにおける残高のタイプ別内訳(2025年5月末時点)



出所: Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成

図表1 欧州株ファンドの残高と資金流入(2020年1月~2025年5月)



出所: Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成